

古代エジプトと情報セキュリティ

カイロの南西17kmのギザに、エジプト最大（世界最大）というクフ王のピラミッドがある。このピラミッドは、2.5トンもある石が230万個以上も使用され、高さは146mもある。そして一辺の長さは約230mあるが、各辺の長さの差は最大でも4センチ程度という精密さだそうである。この精密な巨大建造物の内部には、その主であるファラオのミイラや財宝を守るために、さまざまな盗掘対策が施されていた。棺を納めた玄室（「王の間」）の前には重い石でできた3枚のスライド式の落とし戸が設けられ、さらに玄室に通じる長い上昇回廊はいくつもの花崗岩ブロックで塞がれ、そのうえ外からの入口がどこか、判別できないように加工されていた。ピラミッドは、当時の人々の知恵と技術を結集した、万全のセキュリティを施した建造物だったのであろう。

このような話を聞くと、現代の企業における情報セキュリティとの類似を強く感じる。

現代の企業における財宝の一部は、情報という無形の物に姿を変えて、ピラミッドの中の棺や宝庫ならぬコンピュータに納められている。IT時代の盗掘者は、宝石で飾られた重たい装飾品や調度品などの財宝、秘宝を自らの手で運ばなくとも、宝庫であるコンピュータにネットワークという回廊を通して近寄り、コマンドという呪文を唱えるだけでよい。暑い砂漠で汗をかき、砂まみれになる必要は

ない。エアコンの利いた自宅のベッドルームから、気の向いたときに、世界中のピラミッド（企業システム）に侵入し財宝（情報）を漁る。

企業のほうでも、古代エジプト人がさまざまな仕掛けをピラミッドに施したように、さまざまな情報セキュリティシステムで守りを固める。よく知られたファイアーウォールや、IDS（Intrusion Detection System）と呼ばれる不正侵入検知システムはその代表格である。しかし、情報セキュリティシステムの構築はセキュリティ製品を買ってきてつなげばよいというものではない。システムの設計や設定方法によってその効果は全く異なってくるのである。それは豊富な知識、高度な技術が必要とされる仕事である。そういう観点からすると、単純に石を積み上げるのではなく、高度な技術によって精密で複雑な防御システムを織り込んだピラミッドを造り上げるのに似ていると言える。

では、多くの技術者を動員し、最新技術によって情報セキュリティシステムを構築しておけば安心できるであろうか。その答えはエジプトのピラミッドが物語っている。技術の粋を集めて作られたピラミッドは、そのほとんどが盗掘者によって破られ、多くの財宝、遺産が失われた。そして、エジプト文明に関する多くの情報が失われ、歴史上の謎となったのである。

さまざまなセキュリティの仕掛けが施され
たうえ、監視員が置かれて盗掘者から守られ
ていたはずのピラミッドの多くが無事でなか
ったのはなぜだろうか。捕らえられた盗掘者
を裁いた裁判記録が残っているそうであるが、
それには、盗掘者には役人も含まれており、
取り締まるべき警官も盗掘者を買収されている
という乱れた状態が記されていたという。技
術の粋を集めて造られたにもかかわらず、そ
れだけでは万全とは言えなかったということ
である。しかし、盗掘者に狙われながらも、
ファラオのミイラや財宝が残ったものがあっ
た。ピラミッドではないが、「王家の谷」に
あるツタンカーメン王の墓である。その陰に
は王に忠誠を誓ったマヤという人物の存在が
あったという。マヤは盗掘者達に墓が狙われ
るたびに対策を施し、その作業をした労働者
たちが生きている間は警備を緩めることなく、
墓を守り通したそうである。

現代人もIT技術を駆使してピラミッドな
らぬ情報セキュリティシステムを築き上げて
いる。しかし、システム構築と同様、あるい
はそれ以上に重要なのは、その機能を維持す
ることである。情報セキュリティシステムは、
現代の技術をもってしても、組み上げただけ
では、時間の経過とともにすぐに陳腐化して
しまう。セキュリティホールと呼ばれるたっ
た一つのソフトウェアの機能不備や、システ
ム構成変更への対応の漏れがシステムとして

の機能を台無しにしてしまうのである。単に
監視していれば良いというものではない。高
度な技術を駆使し、継続的にシステムを点検
し機能を維持する体制が必要である。また、
法制度などを含む社会基盤の整備や、セキュ
リティに対する明確なポリシーも必要である。
つまり「技術」と「制度」、そしてそれを司
る「人」の3つの要素が一体となってはじめ
て、情報セキュリティシステムはその効果を
発揮するのである。なかでもとくに重要な要
素は「人」である。正義感と倫理観を持って
セキュリティに携わる人たちが、日々進化す
る技術を収集し、検証を行って必要なものを
とり入れる地道な作業を繰り返している。

エジプトでは現在でも毎年ピラミッドの盗
掘者が逮捕されているそうである。企業の情
報（財宝）を守る技術者たちの、ネットワー
クへの侵入者たちとの戦いは永遠に続き、手
を抜けば戦いに負けるのは避けられない。
ITを基盤とした21世紀の文明を支えるのは、
「技術」「制度」「人」が一体となって作り上
げたしっかりとした情報セキュリティシステ
ムと、それを守り続ける信念と行動である。
情報セキュリティシステムが国家や企業の重
要課題であるという認識が欠けた時、繁栄は
失われ、やがて過去の謎となって消えていく。
盗掘者との戦いの教訓はそのことを物語って
いるのではないだろうか。

（NRIセキュアテクノロジーズ 寺田 洋）